

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立高木瀬小学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日 令和8年4月23日（木）

（注）質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年 小学校第6学年

調査の内容

（1）教科に関する調査

国語、算数

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
 - ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

（2）質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

・全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。

・また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。

したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。

質問
調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問 番号	質問事項	本校 (%)	全国 (%)
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	80.0	77.6
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	84.0	85.7
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	92.0	91.4

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

◎自分のめあて（課題）をもち、意欲的に学習に向かう子がたくさんいます。

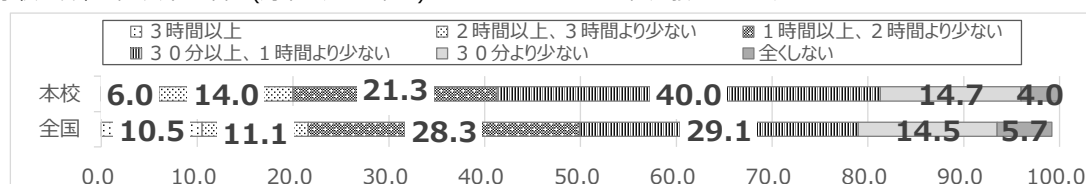
◎タブレットを使ったり、友達と話し合ったりする多様な学びが定着しています。特に「友達の考えを大切にする」「みんなで協力する」という姿勢が育っています。

●「次の学習」につなげるために、学習（単元）の終わりに自分の学びの成果と課題をていねいに自分の言葉で振り返ることが不十分です。

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	80.7	79.4
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	76.0	78.4

23 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日) 1日当たりどれくらいの時間勉強していますか



《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	89.3	85.6
10	将来の夢や目標を持っている	76.0	81.8
15	学校に行くのは楽しいと思う	89.4	85.7
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	94.0	92.5

本校の調査結果 ※◎（強み）、●課題

◎学校生活を前向きにとらえている児童が多く、安心感や充実感を感じながら生活していることがうかがえます。

◎思いやりや他者に貢献しようとする意識は高い傾向が見られます。

●社会の一員として「自分の力で世の中をより良くしたい」という思い（市民性）が、まだ十分に育っていない傾向にあります。

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	97.3	95.8
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	77.3	80.1

調査結果を受けて

【学校では】

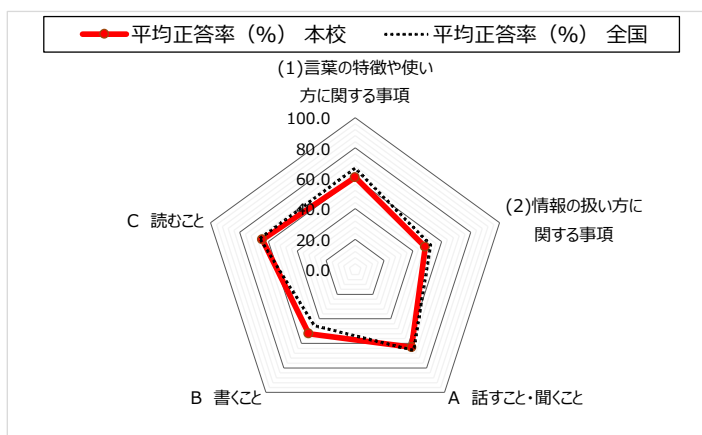
- 新しい学習（単元）に入る際に、これまでに学習したことを振り返り、学習内容の系統性を意識させることで目標達成を図ります。
- 「学級会」や「代表委員会」を始めとする教育活動全体で、自分の意見が学校生活に反映される機会を意図的につくり、「当事者意識」を育みます。
- 対話を通して考えを更新・深化させるような学習過程を充実させます。

【ご家庭では】

- できるだけ大人の指示を減らし、自分で自分自身のことを決める機会を増やしてください。
- 失敗や間違いを次の学びにできるよう、温かい助言や励ましをお願いします。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に 関する事項	60.8	66.8
	(2)情報の扱い方に 関する事項	48.6	52.3
思考力、 判断力、 表現力 等	A 話すこと・聞くこと	63.3	65.8
	B 書くこと	52.0	45.7
	C 読むこと	64.2	65.9



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	59.5	61.9
短答式	57.8	62.6
記述式	56.1	54.9

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 文章全体の構成や筆者の意図を読み取る力、理由や事例を整理しながら構成を考える力が概ね身についています。

● 根拠と主張を関連付けて読む力、表現の効果を捉える力には課題が見られます。「なぜそう言えるのか」という根拠を明確にしたり、詩や文学的文章における言葉の働きへの着目したりする経験を充実させる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 一	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考察することができるかをみる	65.5	57.9
1 一	相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考察することができるかをみる	74.3	73.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題 番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 二	考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することができるかをみる	43.9	48.9
1 二 (3)	比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができるかをみる	58.1	65.2

調査結果を受けて

【学校では】

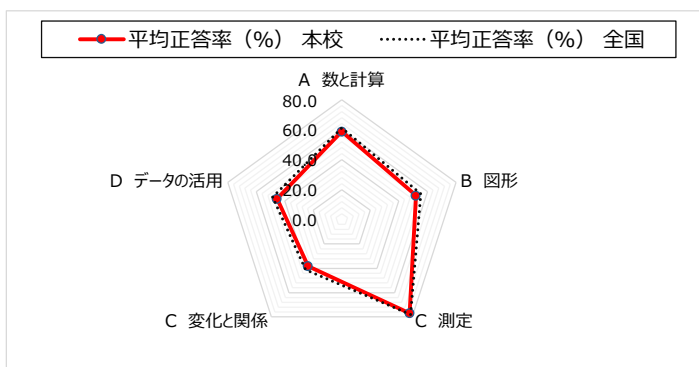
- 自分のペースで主体的に臨むことができる学習活動を展開し、言葉による多様な表現を味わうことができるように、学習課題を設定した単元づくりを行います。
- 授業で、何ができるようになったのか、どのようにできるようになったのか、内容や方法を自分で見つめなおすことができるように、学習を振り返る時間を意図的に設定します。

【ご家庭では】

- 論理的思考力は、日常の対話でも養うことができます。「どうしてそう考えたの？」と理由を問うたり、「最初からもう一回話してみよう」と順序だてて話すように促したりすると自然とその力がついてきます。
- 雑誌や新聞、看板や地名、テレビのテロップや曲の歌詞など、お子さんと共通の言葉に触れた際に、表現の面白さや工夫について話題にしてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)	
	本校	全国
A 数と計算	58.8	61.1
B 図形	52.0	55.3
C 測定	77.0	78.1
C 変化と関係	38.3	41.1
D データの活用	45.4	48.6



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	54.3	56.0
短答式	57.3	59.7
記述式	43.9	48.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 基本的な公式や意味理解、小数の仕組みや数の構成については定着が見られ、計算の基礎となる数感覚が育っています。

● 「割合」「基準量」「比較量」の関係理解、根拠を説明する記述力に課題が見られます。数学的な見方・考え方を言葉や式で表現する経験を充実させる必要があります。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
3 (1)	小数が整数と同じ十進位取り記数法の仕組みで表されていることを理解し、条件に合う小数をつくることができるかどうかをみる	93.2	94.5
4 (2)	示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることができるかどうかをみる	77.0	78.1

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
4 (3)	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる	18.9	17.9
2 (3)	単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断できるかどうかをみる	33.1	36.1

調査結果を受けて

【学校では】

- 授業で、魅力的な解決課題を提示することで、主体的に学びに向かうことができるようにします。
- AIドリルを活用して、つまづきを解消したり、発展的な問題に挑戦できるようにしたりします。
- 自分の考えや問題の解き方を説明できるように、対話的な活動を充実させます。

【ご家庭では】

- 生活の中で算数の良さを体験できるよう、買い物の割引や、飲み物や料理の調味料などの割合、スポーツの勝率やゲームの成功率などを話題にしてください。